

# 生乳の減産型計画生産における営農技術対策

平成18年4月3日

技術普及課

生乳の需給緩和に対して生産者団体では、減産型の生産調整を実施することを決定され、経産牛淘汰、早期乾乳、全乳ほ育などの取り組みが行われている。これらの取り組みを実施する場合、以下の点に留意し対応する。

## 1 計画生産の取り組みに対する技術的留意点

### (1) 計画的淘汰について

計画生産を達成できない見通しになった場合、淘汰が必要となる場合がある。その場合は、繁殖障害、乳房炎、低乳量、低乳成分の牛などを優先して淘汰する。淘汰する場合に備え、あらかじめ自分の経営内で淘汰する牛の優先順位を決めておく。

### (2) 早期乾乳について

次期乳量に悪影響を及ぼさない程度に早期乾乳を実施する(通常より10日程度早める)。

乳牛のボディコンディションを見て調整し、乾乳後は過肥対策(搾乳牛とは別飼いし、乾乳牛舎での管理)が必要である。

### (3) 全乳ほ育について

子牛への感染の危険を防止するためには、生乳を加熱処理(60℃、30分程度)する必要がある。また、疾病感染牛(ヨーネ菌、サルモネラ菌、白血病ウィルス、黄色ブドウ球菌感染牛)の初乳や生乳は感染の危険性があるので子牛に飲ませない。

## 2 所得の減少を抑えるための対応

減産型の生産調整による所得の減少をできるだけ抑えるため、以下の点に留意し、疾病を防止しながら確実に受胎させ、効率的な生乳生産や所得確保の取り組みを行う。

### (1) 生産技術面

(ア) 土壌診断に基づく適切な肥培管理、適期の牧草収穫に務めるとともに、サイレージの調製に当たっては、十分な踏圧と早期密封を行い、良質な粗飼料の確保を図る。

(イ) ボディコンディションやMUN、乳成分などのモニタリングを実践しながら、乳期別に栄養管理を行うとともに、換気や飼そう・敷料の管理など飼養環境の向上を図ることで、乳牛の健康維持を図る。特に乾乳期から泌乳前期の管理方法の再点検を行う。

(ウ) 泌乳前期の栄養充足に留意し受胎率の向上を図るとともに、十分な観察で発情発見率を高める。

(I) 個体ごとの成績を把握して生産性の低い駄牛を淘汰し、牛群の生産効率を高める。そのためにも乳検組合に加入し、牛群成績の把握と活用を図る。

## (2) 経営管理面

(ア) 牛の健康を保持し、生産コストの低減を図るため、できる限り栄養価や品質が高く、採食性の良い自給飼料を生産し、購入飼料の給与量を低減する。

(イ) 初妊牛販売の割合を増やす（当面、更新する牛が少ない場合）。

(ウ) 飼料基盤の余裕や遊休施設、余剰労働力を活用した肉用牛飼育および受精卵移植やF1による肉用子牛生産の検討を行う。

(I) 機械装備や施設、労力等に余裕がある場合には、近隣農家のふん尿散布作業やほ場管理・収穫作業等の受託を行う。

(オ) 機械・施設の耐用年数を延長するために点検・整備、補修等を行う。